

多機能（児童発達支援・放課後等デイサービス）事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 4年 3月 25日

事業所名 児童療育センター みどりのくまさん

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		活動スペースは、十分ある	
	2	職員の配置数は適切である	4		最低必要人数2人+3人の5名を配置している	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4		視覚からの情報がわかりやすい児童が多いので、写真や絵カードを掲示している スケジュールを提示し、見通しをたてやすくしている 松葉づえの児童がいるので、スロープや広いトイレを使用してもらっている	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		毎朝の清掃と、利用児童が入れ替わるたびに消毒を行っている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4		すべてにおいて、起案→実施→振り返りを行っている	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		年に一度、評価をいただき、寄せられた意見は職員全員で周知している	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4		ホームページで公開している	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4	外部評価を行っていない	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		可能な限りの研修は受けている	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4		計画を作成する前に、可能な限り事業所内相談支援をもうけ保護者から聞きとりをしている	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		記録表や個別支援計画報告用紙を使用している	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4		必要な支援をすべて設定できるよう気を付けている	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4		利用毎に記録表を記入する際、支援計画に沿って支援が行えているか確認をしている	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		各職員で起案を出し合い、全員で試作や検討をしている	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		同じ活動でも、ルールや使用するものなどを変えて、固定化しないようにしている	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4		個別活動、集団活動を児童の様子を見ながら、適宜活動に誘う等している	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		朝礼で当日の確認を行っている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		終礼で気付いたことを報告しあっている	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		一人ひとりの記録表を記入し、それを回覧することで周知・検討・改善している	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4		半年に一度と、必要な時にケース会議を開き、見直しをしている		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		児童発達支援管理責任者もしくは児童の担当職員が参画している	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4		永平寺町の方たちに施設の見学に来ていただいた	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			該当なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			"	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			療育の様子を見に来ていただくなどしている
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			必要に応じて移行支援を行っている
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		4		コロナにより、研修の機会がなかった
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		4		子どもの特性と、コロナにより、交流できなかった
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		4		コロナにより、参加できなかった
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	4			連絡帳や口頭で情報共有をしている
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4			保護者から相談されたとき、どう接するとよいか等助言をしている
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			利用者負担(上限額管理)について、問い合わせがあったので丁寧に説明した
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4			支援計画のサインをいただく際、書面または口頭にて説明している
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			相談したいことがあればいつでも声をかけてほしいと伝えている こちらから、気が付いたことを質問することもある
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4			くりひろいイベントにて、保護者同士の交流の場をもうけた
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4			連絡帳などで、相談事項があった場合、職員会議にて話し合い結果をすぐに伝えるようにしている
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4			長期休暇や必要に応じておたよりを発行し、情報発信をしている
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4			施設の外に持ち出す際は、ダブルチェックをするなどしている
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			口頭では忘れてしまうので、紙に書いて渡したりしている
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4			ハロウィンイベントを実施 地域の方に協力してもらった

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	各マニュアルを作成し、年間計画に基づき、訓練を実施している		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	年間計画に基づき、訓練を実施している		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	コロナのワクチン接種等、聞き取りを行っている		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	保護者を通し、指示書のもと対応している		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		4	ヒヤリハットを作成する事案がなかった	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	全員で虐待防止の研修ビデオを見るなどしている		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		4	該当児童なし	